

■ 新自由主義のゾンビたち

「ゾンビ」呼ばわり

→新自由主義は(単独行動主義の凋落の道連れになってしまったわけではなく)もとからダメだった/死んでいた。

→どうダメかという、生政治的な生産力を掌握し、作動させることができない(富を生産・増大させる図式を提示できない)から。

新自由主義政策のおもな特徴——私有財産権が強く労働者の権利が弱い、〈共〉的財と公共財の民営化〔＝私有化〕、自由市場、自由貿易——はすべて、商取引と富の再分配に重点を置いている。デイヴィッド・ハーヴェイが正しく指摘するとおり、「新自由主義化の主たる実績は、富と収入を生んだことではなく再分配したこと」であり、それは主として公共のものと貧者から略奪したものを、富者のために蓄積するという戦略の成果だった。(p.107)

新自由主義のもとの富の「創出」の大部分は、かつての第二世界だけでなく、第一世界や第三世界における社会主義の亡骸をしゃぶり尽くすこと——公共の財産や産業、制度に集約されていた富を民間の手に移すこと——で実現されてきた。

(p.107-108)

本質的に富を生産しなければならないのが資本主義だが、それができない新自由主義はそもそも持続可能なプログラムではない。

それが持続可能だという幻想

→生政治的な生産における非物質的な生産物(イメージ、コード、知識、情動、社会関係、生の形態)を理解/想像することのむずかしさ。

「知識」を例に

・生産力/生産手段としての知識

・生産物としての知識

(生産は「人間生成的」なものに)

(知識は価値創出の手段ではなく、価値創出そのものに)

(資本の管理から逃れていく知識)

■ 社会主義の幻想

新自由主義がダメなら社会主義？ その二極しかない？

→そのいずれも、生政治的経済における生産を管理・促進することはできない。

→そもそも、じつは、両者は対立しない。

ソビエト連邦に批判的な何人ものアナリストが主張するように、社会主義は国家による資本主義的生産の管理運営のための体制であることを理解することが重要だ。またその裏返しとして、官僚主義的な経済計画と経済統制、国营産業と公営事業、資本と組織された労働に対する統合的な国家統制といった強力な社会主義的要素は、どの資本主義諸国でも取り入れられていた。(p.111)

社会民主主義に関する伝統的な諸理論は、今日でも依然として、資本主義的生産と資本主義社会を管理運営するための公正で人道的、かつ持続可能な政治手段として提示される。(p.115)

社会主義はしばしば、規制なき資本主義がもたらした破壊に対処するための既定の解決策として機能する。(p.117)

しかし、これらの社会主義(観)がもっぱら富の(再)分配のためのメカニズムとして捉えられている以上、新自由主義がそうであったように、それは持続可能なプログラムではないことになる。

「社会資本」という概念

→補完的、周縁的にすぎず、充分ではない。

→「社会資本そのものが生産資本」であるような状態が今日の生政治的生産である。

生政治的生産はあくまで〈共〉に属するものであり、公的なメカニズムにも私的なメカニズムにも、〈共〉を管理し、封じ込めることはできないのである。(p.117)

〈共〉を取奪=取用し、その価値を獲得するのが民間であろうと、公的な手段によるものでであろうと、資本主義の指令や政府=統治による管理のもとでは、生政治的生産のサイクルが妨げられ、腐敗してしまうという同じ結果がもたらされるのである。(p.114)

資本主義にとっての〈私〉、社会主義にとっての〈公〉にあたるものは、共産主義にとっては〈共〉である (p.118)

■ グローバルな貴族層と〈帝国〉のガバナンス

単独行動主義もダメだし多国間協調主義もダメ。新自由主義もダメなら社会主義もダメ。

それでもグローバルな資本主義経済は機能しつづけている。

何によって？ 政治的相互依存によって。

〈帝国〉のガバナンスの視点からまず明白になるのは、こうしたグローバルな経済的権力構造のもつ「貴族的」な性質である。現出しつつある〈帝国〉とは、古代ギリシャの歴史家ポリュビオスのローマへの賛辞を——多少の皮肉を込めて——借りれば、一人の君主とごく少数に限定された貴族層、そしてより広範な(擬似)民主主義的基盤というピラミッド構造によって規定される異種混交政体であると私たちは表現したい。(p.121)

アングロ・サクソンの「ゴシック政体」[一者(国王)、少数者(貴族)、多数者(人民)の間の協調によって成り立つ混合政体] (p.50)

